

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	6	学校名	甲府南高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	657	名
スクールポリシー (学力に関するもの)	スーパーサイエンスハイスクールの実績があり、理数科をもつ山梨県の理数系教育をリードする高校として、科学への夢や科学を楽しむ心を育みながら課題解決能力を育て、日本や国際社会の様々な分野で活躍し、持続可能な社会の創り手として貢献できる人材を育成する。							
グラデュエーション ポリシー	将来、日本や国際社会の様々な分野で活躍し、社会の発展に貢献できる人材の育成を図る。校訓『開拓者精神』のもと、真理を求め、高き理想を掲げ、真摯に学ぶ生徒を育てる。善なるものを求め、自他を敬愛し、品性を磨く生徒を育てる。美しきものを愛し、心身を鍛錬し、新たな自己を拓く生徒を育てる。							

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/>	SSH事業で成果を残してきた活動を通して文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組
<input type="checkbox"/>	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input type="checkbox"/>	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒授業アンケートの結果を分析し、生徒の主体性を育むための指導と評価の一体化を推進する。 探究活動を軸とした教科横断的な学びの活性化を図る。 測定ツールの分析による課題共有と方策の検討によるPDCAの確立を図る。 相互授業参観および毎週の教科会議の充実による、指導方法、評価方法の継続した検討と改善を重ねる。 指導主事訪問等において教科内での授業力向上に向けての研修を重ねる。 定期的なICT活用研修会の実施と有効利用方法の共有を行う。 	

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%) (各校の授業アンケートに基づく)	R7中間	R7末
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	88.3%	90.0%
2.活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	85.8%	87.5%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	77.4%	81.1%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	73.9%	76.5%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	91.0%	89.7%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	92.6%	92.7%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	87.8%	86.7%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	95.1%	92.9%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	93.2%	94.1%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)	
<p>【成果】生徒が主体的に課題に向き合い、思考を深めながら学習に取り組む姿勢が育成されている。授業アンケート等においても、課題解決に向けて自ら取り組む態度や、協働的な学びを通して考えを深める力に関する項目で、肯定的な評価が高い水準で推移している。また、探究活動や課題研究を通して培われた論理的思考力、表現力及び探究力が、国公立大学を中心とした進路実績に結び付いている。一般選抜に対応する基礎学力・応用力の育成と併せて、総合型選抜や学校推薦型選抜にも対応できる進路指導体制が整ってきている。</p> <p>【課題・次年度の取組】一方で、授業や単元の始めに学習目標を明確に共有することや、単元の終わりに自己評価を行い次の学びにつなげるといった、指導と評価の一体化については、教科間・学年間で取組に差が見られる。また、ICTの活用についても、生徒の思考の深化や自己調整力の育成に十分結び付いていない場面がある。次年度は、授業アンケート等の客観的な測定結果を活用し、課題を全教職員で共有した上で、単元計画における目標・評価基準の明確化と振り返りの充実を図る。また、SSH事業の取組を生かし、探究活動を軸とした教科横断的な学習を一層推進するとともに、ICTを活用した個別最適化学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。さらに、相互授業参観や校内研修を通して指導方法及び評価方法の改善を継続し、生徒が自ら学びを調整し、主体的に進路を切り拓く力の育成に取り組む。</p>	

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。		
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	古文漢文や現代語の語彙力を主体的に向上させ、多様な文章の読解だけではなく、多様な表現の仕方・時代による言葉の変化に気づく力を身につける。	3.88	3.96	言葉同士のつながりや変化を理解し、言葉の多様性を学習できるように、時代や文化の異なる多様な表現を取り上げて検討する。また学んだ言葉や表現を生かし、自分の表現等に生かすようにする。
	論理的な文章や文学的文章、古典作品を主体的、協働的に読み取り、自分と他者の考察や感想を互いに分かりやすく伝え合う力、時代の変化に対応しながら適切に言葉を用いる力を身につける。	3.92	4.02	論理的な文章や文学的文章、古典作品の主体的、協働的な読み取りにより、文章内で示される主張や心情をつかみ、多様な考え方に触れる機会とする。
	さまざまな分野の読書に親しみ、言葉を通して物事を多角的、批判的に捉え、他者と議論しながら主体的に社会に関わる態度を身につける。	3.84	3.94	教員が生徒に積極的に話しかけることできる問を教科内で検討し、有効な事例の共有を図り、生徒に言葉の力を付け思考力を伸ばす方法を考える。
地公	公民、地理、歴史の3分野において、各課題を理解する。その上で、社会を形成する主体として、様々な知識を身につけ、解決に向けて情報を調べまとめる技能を身につける。	4.01	4.07	授業やその準備を通して各分野についての課題を理解し、様々な知識を身につけている。今後も、課題解決に向けて情報を調べまとめる他、社会に伝える技能を身につけていきたい。
	公民、地理、歴史の3分野において、諸課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を身につける。さらに、考察・構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論したりする力を身につける。	3.90	3.99	各分野において、諸課題を把握し解決を視野に入れて構想する力のある程度身につけられた。今後も考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論する力をより身につけていきたい。
	公民、地理、歴史の3分野において、諸課題を積極的に見つけ、よりよい社会の実現を視野にその課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につける。	3.87	3.99	新たな課題・疑問等を自ら発見し、その課題・疑問等を解決しようとする姿勢を身につけられるよう振り返りや自己評価の機会を設けていきたい。
数学	各分野において、基本的な概念や仕組み、公式・法則を理解し、それらを正確に利用して計算・処理する力を身につける。	4.12	4.13	各分野において、基本的な概念や仕組み、公式や法則を理解させることが概ねできた。次年度ではそれを正確に利用して処理する力を培ってきたい。
	各分野において、問題の解決方法を考察し、推論や検証の思考を深め、その思考過程をわかりやすく表現する力を身につける。	3.97	4.04	各分野において、問題の解決方法を生徒同士で考察する活動から、生徒自身の考えや思考過程を表現する力を養うことが概ねできた。次年度では、思考過程を表現する場面を通してわかりやすく表現する力を身につけさせたい。
	各分野において、内容に関心を持ち、数学のよさを認識しつつ、積極的に活用し振り返って検証する力を身につける。	4.00	4.04	各分野において、普段の授業から数学と日常の事象との関わりを持たせることで、数学のよさを感得させる機会を設けることができた。次年度では生徒自身で学習したことを振り返り、検証する力を重点的に培ってきたいと考えている。
理科	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また観察、実験の基本操作を習得するとともにその過程や結果を的確に記録・整理することができ、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	3.99	4.02	基本的な概念を暗記するだけの学習にならないように、原理や法則を理解させたい。そのために興味関心を持つことが出来る実験実習や、ITを活用した授業を展開していきたい。
	自然の事物・現象について、習得した知識を関連させ、図やグラフ等を用いて、自分のことばで表現することができる。	3.80	3.91	習得した知識を適用して表現する場面に授業内で積極的に作っていくこと、OPPシートや実験レポートを自分の言葉で書くように指導していくことで表現力を高める。
	日常生活や社会との関連を発見し、自然の事物・現象について探究することに意味を見だし、主体的に探究しようとする態度を身に付けている。	3.88	4.00	課題を自ら発見する姿勢を養うとともに、日常生活の様々な事象を伝える。サイエンスフォーラムなどの講演会やフロンティア探究の講義内容に触れ、身近なものとして捉える。
英語	日常的・社会的な話題について、日ごろ学んできた基礎的な知識・技能を、求められた場面状況において応用的に使うことができる能力を身につける。	3.82	4.00	教科書の内容についてリテラシーを、相手の発言のに対して質問を作成しやり取りをした。今後内容が抽象化していくが、主体的に理解するよう努め、自分の言葉で考えを伝える力をさらに養成していきたい。
	日常的・社会的な話題及び入試問題について、今まで身に着けた技能を統合し、求められた状況下において適切な思考判断をした上で、アウトプットを行うことができる力を身につける。	3.82	3.96	教科書の内容についての意見交換や、動画制作におけるメッセージの表現を試みた。今後構成を考えて話したり書いたりする力を養い、論理性を高める工夫を行ってきたい。
	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて、話そうとしたり、書こうとする力を身につける。	3.84	3.98	動画などのリソースを活用しながら、様々な地域の文化や人々の考え方について知識を深めた。今後他教科における学びを活かし、話題を多角的な視点から捉え、積極的に英語を使ってコミュニケーションを行う姿勢を醸成したい。
芸術	芸術作品の構造や文化的・歴史的背景等との関わり及び芸術の多様性について理解し、創意工夫を生かした表現のための技能を身に付ける。	4.06	4.21	課題の学習を通して、芸術作品の構造や文化的・歴史的背景の理解や表現するための基礎的な技能を身に付けた。これらを活かし、創造的な表現活動に結び付けられるよう授業を展開したい。
	自己のイメージをもって表現を創意工夫することや、作品を評価しながらよさや美しさを自ら味わって鑑賞する力を身につける。	4.12	4.25	表現活動や鑑賞活動において、自己のイメージをもって表現したり自分の考えや感想を発表するだけでなく、作品について生徒同士が討論しあえる取り組みを増やしてきた。さらに得たことを活かせるように授業を展開していきたい。
	主体的に芸術活動に取り組む、感性を高め、生涯に渡り芸術を愛好する心情や芸術文化に親しむ態度を身に付ける。	4.17	4.26	生徒の主体的な取り組みを支え、生涯に渡って感性豊かに芸術活動に関われるよう、題材を精選し更なる授業改善に努めたい。
家庭	消費者として家庭や地域及び社会につながる衣食住分野や家庭経済・環境、保育・福祉分野でのための必要な知識・技術を習得するだけでなく、多種多様な問題や課題に対応できる力を養う。	4.09	4.19	消費者として家庭や地域及び社会につながる基本的な知識・技術を習得し、多種多様な問題や課題に対応できる力を養う。
	衣食住分野や家庭経済・環境、保育・福祉分野での課題を設定し、その解決や改善するための手立てを、仮説を設定したうえで実践・評価し、表現する力を養う。	4.01	4.15	ホームプロジェクトを2回行い、課題設定からのSPDSのサイクルで自らの課題を発信し共有する。今後も課題を設定し、実践・評価し、表現する力を養う。
	実験や実習を通し、仮説からどのように課題を解決するかの見通しを持ち、その知識や技術を家庭や地域及び社会につなげていく力を養う。	4.01	4.17	実習はできるだけ主体的な活動と協働できる活動を取り入れる。今後も、主体的に学び実践できるようにサポートしていく。
保体	健康で豊かな生活を送る上で、規則正しい生活に加え、運動が必要不可欠であることを理解し、生涯に渡って運動に親しむための運動技能や自分自身で健康を管理できる能力を身につける。	4.25	4.31	健康で豊かな生活を送る上で、規則正しい生活に加え、運動が必要不可欠であることを保健授業で理解させ、運動技能を習得する体育授業の展開を目指したい。
	グループ学習を通じて個人やチームの課題について、課題を克服するためにどのような練習が必要なのかを考え、工夫をしながら解決に取り組める能力を身につける。	4.22	4.30	グループ学習を通じて意見を伝え合う場を設けることや、個人やチームの課題について考えることに加え、課題を克服するためにどのような練習が必要なのかを工夫させるような授業を実践する。
	自ら率先して動くことを求め、仲間とのコミュニケーションを大切にすることや互いに相手を尊重する態度を学びながら、基本的なルールやマナーを身につける。	4.29	4.34	1人1役自ら率先して動き、仲間とのコミュニケーションを大切にすることや互いに相手を尊重する態度を育成するとともに、基本的なルールやマナーについても大切にしてい。
情報	コンピュータを用いた情報と情報技術を活用して、問題を発見・解決する方法についての基本的な知識と技能を身に付ける。	3.95	3.97	問題を解決する方策として、生成AIを活用し、効率的かつ高度な技能を身に付けさせたい。
	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を身に付ける。	3.89	3.92	身の回りの様々な現象を確実に把握、分析し活用する姿勢を養いたい。また補助ツールとして生成AIを活用し、自身の確かな判断力を育成したい。
	情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、高度情報社会に参画する意欲がある。	4.01	4.07	増々高度になる情報セキュリティ分野において、受け取る情報の信頼度を高めるための方策を学習させたい。
総探	課題研究を通じて研究手法を身に付けるとともに研究計画や方法を自ら立案できる。	3.87	4.12	オリジナルポर्टフォリオ「Frontier Discovery」の活用により、指導する教員と生徒が共通理解のもと、研究の基本的な手法について学びを深める主体性を身に付ける。
	研究により得られたデータを科学的に考察し結論を導くことができる。他者の理解を得るための魅力あるプレゼンテーションを行うために創意工夫できる。	3.80	4.08	協働で取り組むことにより協調性を身に付け、何事にも主体的に取り組む、粘り強く思考し、課題解決につながる自己評価を実施する。
	主体的に身近な課題や問題を発見し、その解決方法を提案・提示することができる。	3.84	4.10	社会で活躍する人材として日頃より様々な事象に広い視野で目を向け意識を高く持ち、科学的根拠を示しながら説明する資質・能力を身に付ける。